

国際サーカス村通信	VOL13NO8	2009年5月22日(金)
		文責 西田 敬一
編集 NPO 法人国際サーカス村協会	〒376-0303 群馬県みどり市東町座間 41-1	
Tel0277-70-5010 Fax0277-97-3688 <a href="mailto:mura@circus-mura.net">mura@circus-mura.net</a> <a href="http://www.circus-mura.net">http://www.circus-mura.net</a>		

## 第5回東京国際フール祭に参加

第1回東京国際フール祭をおこなったのは2000年だ。このフール祭は、ディミトリーを日本に呼ぶことができたことでイメージがふくらみ、いつの日にか、さまざまなクラウン、パントマイミストなどが一同に介するフェスティバルができないかと夢みていたのが、それから10年近くたって実現したものだ。そして2回目、レ・クザンのジュロがカンボジア・PPSについて講演してくれたことが、現在のカンボジア・PPSとの交流につながっている。フール祭は、ある意味で㈱アフタークラウディカンパニーの皆の常日頃の仕事と考えをよりよく発信するために試みだといえるだろう。

そして今年、5回目。

6月14日(日)14:30開演のオムニバスB。

ここに、サーカス学校の生徒を出演させてもらうことにした。実は、昨年、渋谷・児童会館でかなりまとまったかたちでショーができたのだが、昨年末、卒業生、研究生の多くがサーカス学校を巣立っていき、現在のメンバーで一本のショーを構成してお見せするのは難しいかなと思い、出演を躊躇していたのだが、ショーとして構成するのではなく、現状、自分たちが一番いいと思う演技を披露すればいいのではないかと考えなおし、急遽、出演させていただくことにした。

というわけで、チラシには、裏面の6月14日のプログラムに“ 沢入国際サーカス学校も出演！ ”と書き加えてもらった。ぜひ、ご覧ください。

このオムニバスBに参加するサーカス学校のメンバーは以下の通り。

斉藤英祐	ジャグリング (*一人、独立して演技します)
	*
田中健太	シガーボックス
目黒有沙	コントーション
谷口 界	椅子倒立
渡邊 翼	ディアボロ
栄原麻衣	フラフープ
鶴 貞浩	キューブ
松本真理	ロープ

(\* 上演できない演目ができる場合もあります。ご了承ください)

なお、チケット取り扱いについては、同封チラシをご覧ください。

## 第六回ティニ・ティノの参加して

沢入国際サーカス学校 松本真理

カンボジアに行かせてもらい、私は学んだことがたくさんあります。あんなに大勢のアーティストの人たちと会うことも、初めてでした。とにかく見るもの総てが初めてで、向こうにいた時は、日本を恋しく思う間もないくらいいろいろな事を見たり、したり、考えたりした日々でした。

日本に帰ってきた今でも、カンボジアで過ごした毎日が、私の感覚になってずっと残っています。そして日本は本当にとても、とても豊かな国だと実感しています。

カンボジアで過ごした日々の中で、とても大切な思い出は、向こうの子どもたちと仲良くなれたことです。会話はほとんどできなかったけど、子どもたちは私を受け入れてくれて、うわべだけの関係ではなく、もっと深い所から繋がりがあえた気がします。あと、いろいろな場所にも行かせてもらいました。ディスコで踊ったり、トロッコ列車のようなバンブー・トレインに乗ったり、市場も歩いたりしました。

市場は、常にすごい臭いがしていて、貧しい人たちも沢山いて、生きるということがどれだけたいへんな事が実感しました。日本に帰ってきて、今までの生活にもどったけど、向こうで見た人たちの事を思い出すと、私はその人たちと同じくらいしっかり生きているのだろうか疑問に思う自分がいます。ずっと親に頼り、周りの人に頼りながら生きてきた私。今、このサーカス学校にいることを本当に感謝して、これから私が目指していくものに、精一杯向かっていかなくてはと思いました。

ワークショップに参加させてもらい、子供たちと一緒にやっていくうちに、本当にみんなそれぞれの個性があり、いろんな子がいて、その一人ひとりの性格を知っていくことが、楽しかったです。子供たちは、とても楽しそうに、無邪気にシフォンやブランコ、クラウニング、様々な芸を教えてもらっていました。そして教えてもらった事はすぐに覚えてしまい、どんどん上達していました。あと何年か後には、みんなどんな事をして、どんな風に成長しているか、とても楽しみです。

カンボジアの人たちを見ていて感じたことは、とてもすごいエネルギーを持っていること。いつもさらに、さらに先にいこうとがんばっていて、いつこの人たちは休んでいるのだろうと不思議になるぐらい、日本では感じられないエネルギーに満ち溢れていました。

私がカンボジアに行かせてもらい、本当に実感したのは、自分の未熟さでした。自分の芸の道具のセットや管理も一人でやれなくて、周りの人たちに頼ってばかりで、何も私一人ではできませんでした。日本に帰ってきて向こうで自覚した事、学んだ事を忘れずに、一人で生きていけることを目指してやっていこうと思います。

カンボジアに行く前は不安でいっぱいでした。でも行ったらたくさん大好きな人たちができました。たくさん楽しいことがありました。向こうで大切なものをいっぱい学びました。今はその思い出を力に変えていこうと思います。

私の住んでいる日本と世界は、だいぶ違いました。常識、普通という感覚も違いました。カンボジアの人たちの普通の感覚はもっとクリアで、生きるという事がもっと真実に近い気がしました。

今回カンボジアに私を行かせていただいた事を心より感謝します。経験させてもらったことを私の中で活かして、目指すものに向かってがんばろうと思います。